

Café JAPONES

- DE -
K. UCHINO
Las Heras 667 - Tucumán



カフェ
ハポネス
内野清
ツクマン市
ラス・エラス街六六七

KATSUDA y Cía

IMPORTADORES



U. T. 38 - Mayo 2313
Calle MEXICO 1474
Buenos Aires

Sadao Hattori

IMPORTADOR

Especialidad en artículos de
CEPILLERIA

Calle LINIERS 649
U. T. 45, LORIA 3218
BUENOS AIRES

TALLER GRAFICO NIPPON

Santiago del Estero 975
U. T. 23 - 7864

西文活版印刷
便箋・封筒・名刺
其他各種
技術優秀・迅速確實
價格低廉
電話にて御一報次第
券上致します
ニッポン堂印刷所
北川 稔

TINTORERIA "BOTAFOGO" DE K. FUNAI

Tañir trajes y vestidos \$ 8.-
Planchar trajes 2.-
Sombreros 0.70

Consultar precios en la misma
SALON DE ESPERA

ENTRE RIOS 215 - U. T. 38, Mayo 7740

Suc. Sarmiento 1900
U. T. 47 (Cuyo) 0984

帽子洋服クリーニング
最新のシステムに依り最も
迅速廉價に仕上げます
テイントレリア
ボタフォゴ
本店市内エントリオ街二五
電話マヨ三七四〇番
支店市内サルミエト街一九〇番
電話クイヨ九八四番
府内喜平

GRAN BAR COLON de Manuel Gomez

御酒其他の御飲料は
一切品質本位
正真正銘保証付
午後三時より「ヴァリエテ」
開幕。二組のオルケスタ
は「タンゴ」と「ジャズ」の曲目
取りませ毎夜一時まで大
車輪で演奏致します

Leandro N. Alem 622
U. T. 31 (Retiro) 1828

JIRO HONDA & Hno.

Importadores de Artículos Generales del Japón



Belgrano 847 - Buenos Aires
U. T. 38 - Mayo 2718

TINTORERIA

"SAGA"

MEXICO 1424
U. T. MAYO 1259

FAURE y Cía.

Importación directa de Ho-
landa, Bélgica, Francia, Ale-
mania, N. América, etc., de

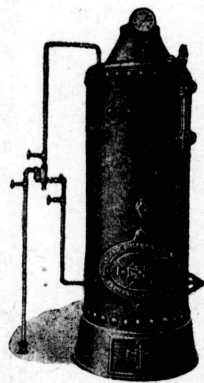
各種輸入販賣
BULBOS
PLANTAS
SEMILLAS EN GENERAL
PAPAS
VIDRIOS, Etc.

Paseo Colón 560 - 68
BUENOS AIRES
U. T. 1714, Avenida

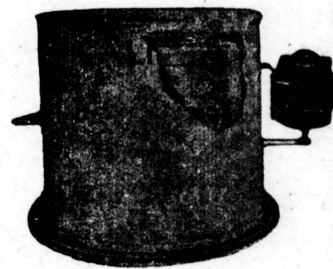
CALDERA LOOKOUT
De Construcción Vertical
y Horizontal

ALFA-LAVAL S. A.

CENTRIFUGA ALFA
Accionada por Motor
Eléctrico



世界に名を博する
アルファ印洗濯器を
テイントレリア経営の日本人
諸君に御薦めいたします
服地の損傷皆無
時間の節約
最小限度の労費
その他あらゆる点に於て理想的
であります。市内有数のテイント
レリアで使用せられ多大の好評
を受けて居ます



CHACABUGO 599

U. T. 37, Riv. 4300 4302

BUENOS AIRES

亞不然丁時報

歲晚に臨みて

本年も旬日を出でずして將に終りを告げんとして居る。既往を顧ると、後悔の歩く姿を眺むれば、杖をついたり轉んたり之感なきを感せずである。本年の年頭に際して計画した事は少くもなかつた。又予期した事も成り多かつたのである。而かも現在に於て成証した事は果して何れだけあるか。如何なる進歩を遂げられたか。社会にどれだけの貢献を致したか。此等の諸点に就て過ぎ去つた一年の行程を顧ると、寧ろ多くは意と違つてあるのである。然し既往は追ふべからず。数日後に迎へんとする新年を思へば前途に一條の光明を認め得るのである。

祖國貿易通觀

(十八日)一月以降十一月日同貿易總額三十九億九千二百萬、輸入二十億二千九百萬、入超六千六百六十萬に比し輸出一割五分、輸入一割七分を増加

本年の貿易を通過するに輸出は英國領に於ける外國織物輸出が、及至を始め歐米各國中輸入割増、及至輸入制限を施す割増の爲、通商手帳の増大に拘り、円價安に伴ふ輸出能力の増大と、見越輸出も手得い、輸出(生糸は手得低落により不振)は綿製品、特増如し、主要國別に於ては米國を除き滿洲、南洋諸國、英領印度、遠東の外、亞非利加、中南米等諸市場向輸出顯著なリしに對し、輸入は重工業品況と輸出産業對等に關係深き品類増を見たる爲、差引入超は前年比にして割増五分増し、外債の償還は好調の爲、その入超額、前年比にして三割一分を増加せり。

他方貿易外の收支に於ては、農畜関係による外債返済及び対露投資の増加に對し輸出進捗に伴ふ海運収入の増収も見込まれ、彼此相殺し、本年の國際収支は前年比に比し稍、支拂勘定の増加を見るべく期待せらる。一月以降、対支貿易總額、二億四千三百万、輸一億三千四百萬、

出超二千五百萬、前年比にして、輸出一割五分、輸入七分、出超四割五分の増加、右は排日貨傾銷と、関稅引下げの影響もあり、中支貿易著しく恢復したるに依る。

同期間対滿貿易は輸出三億六千九百萬、出超二億二千万、前年比にして輸出二割五分、出超約六割を増加す。

本年の財界を概観するに商品、專業界の好調に、一般に社会事業向上を來し、金融界は公債増發、日銀の操作に差を反響なく、低利金基調一段と深刻化し、國策東止地方官會により農村購買力、依然不振の場を脱せざりしに拘り、概して順調に推移し、年末金融平穩経過を見るべく予想せらる。

予備會談休會後の折衝方式

(倫敦十九日)予備會談休會後の折衝方式に關し英國政府は左の如く聲明した。(休會後の折衝は連日外交使團を以て行ふ)折衝の目的は出来れば一九三五年海軍縮少本會談に先立ち更に予備會談を再開し本會談の成功を期するにある。(右休會後の外交交渉は日本政府が華府条約廢棄した後となる見込み)折衝の主題は海軍縮少の相互通商協定中心とする英國政府の和協協定とす。

告示

昭和十年一月二日午前十一時半公使官邸(アリベールニヨス街一四一七)に於て新年拜賀式ヲ挙行ス
昭和九年十二月二十日
帝國公使館

告示

自昭和九年十二月二十九日
至昭和十年一月三日
右期間休業
昭和九年十二月二十一日
帝國公使館
帝國領事館

商船發着日取

マニラ丸 入港十二月三十日
出帆一月五日
リオデヂアネーロ丸
入港一月七日
出帆一月十三日
大阪商船
マニラスアイレス
支店

御正月用食料品到着

左記正月用食料品が到着致しました。御買上之程願います。
力餅、数え子、浅草海苔、筒小豆、松茸、干瓢、昆布、推耳、福神漬(大小)、海苔佃煮、若布、スルメ、鯉節、刻昆布、寒天、梅干、干切大根、高野豆、鴨、縮緬雑魚、醤油、生姜、あられ(上中)、淡利貝、揚子豆腐、沢庵、水クラゲ、ライオン印由磨(大小)
昭和九年十二月十九日
在亞日本人會購入部

賣却

西市近郊區中のアルマセン家等の都合上、好条件にて賣渡した。無経験の方は、一月二日同部へ、姓名在社

野球戦

F.C.C.A 球場に於て、午後三時より
二十一日 スタングード対
チヤカアコ戦
二十三日 西インディア対
日本軍戦

内外時報

倫敦予備会談と日英米の外交戦

(倫敦十五日)予備会談は二十日... 以後は日本政府よりの回訓如何に依... 休日は余す暇僅かに五日に過ぎず... 在に於ける日英米三國代表部の... 外交戦を一瞥すると次の如く我が... 回訓は今や予備会談の死命を制す... 立場に立つに至つた。日本側、... 日本代表部は兩期日を決めて休... 会に入るを依然希望し、日英米... 家合戦の案を基礎に数字の細目討... 議の用意ある事を表明し、米國代... 表部をして我が華府条約案を通告... を理由に打ち切りを主張するが余地... なからしめんとしつゝ、あり、大勢... は日本側に有利に展開しつゝ、ある... ものと観測される。英國側、英代... 表部は他国合戦継続を希望し、東... 京よりの回訓が、和協案を容れ... た場合には、万一米國側が日本の... 條約案後合戦打ち切りを主張し... ても、日英間に合戦を継続する同意... を表し、回訓に期待をかけるのみ、... 米國側は日本の条約案を通知と... 同時に合戦を打ち切り、決裂の責任

華府条約廢棄案 樞密院通過

樞密院通過

(十九日)華府条約廢棄案は上... 程の樞密院本会議は午前十時官中... 東閣開会後、先づ平沼外相が... より約三十分、審査委員会の経過... と結果を報告した後、満場一致政... 府案を通り可決した。右通告... 文は左の如し。(原文)書翰を以て... 啓上致候。原案は本國政府の... 訓令により左の通り閣下に通告す... るの光榮を有し候。日本政府ハ一... 九二二年二月六日華府條約ニ於テ... 名サレタル海軍軍備制限ニ關スル... 條約ニ三三條ノ規定ニ從ヒ、茲ニ... 亞米利加合衆國政府ニ對シ右條約... ニ廢止スルノ意ヲ通告ス。右條約... 國務長官コルデルハ爾下

条約廢棄に當り 大用海相は詰る

大隅海相は樞密院本會議後... 海軍省に歸府、直に皇令に對し、... 伏見軍令部部長官殿下に拜謁す。... は樞密院で可決された経緯を御... 報告申上りた後、大要を如く詰つ... た。本日五時以て閣下手續を完了し... た。残るは政府として米國に通告... を發送する問題だけ、此の案に關... しては廣田外相と協定の結果、... 来る二十一日の條約廢止に上呈し... 二十二日華府條約廢止通告文... を發送する事に意見の一致を見た... 華府一肢門滿に今日に至つた事は... 唯應激あるのみだ。只今特別の懸... 想も出て来ない。此の上は日本帝... 國として公正妥當なる真に軍縮精... 神に則る新なる軍縮協定の成立を... 望むもの、更に華府一肢、一段の勢... 力を示さなければならぬ。

聯盟の媾和案を パラグアイ拒否す

(アスンシオン十九日)パラグアイ... は國際聯盟提議の媾和案... の規定に於て、實際に実行不能で... あるとの見解の下に同案受諾を拒... 否し、目下三方向よりポリビア... 害の地、ウイヤモンテスに向つて... パ軍を進軍せしめつゝある。國聯... チヤコ問題委員は二十日、ボパの... 返答に附して審議会を催し、前... 後案を講ずる予定である。

▲國際文化振興会は最近来廷せる... 同會囑託中谷文士を通じて、... 日本のお尋と題する映画を大阪...

"TORRO" PASTRERIA 654-SARMIENTO-654 U.T. 35. LIBERTAD 1392 BS. AIRES 品質本位、仕立入念 八十五ペソより トロロ高等洋服店 市内サルミエント街六五四 ※此の広告切抜き御持参の方には一割引致します。

正月用食料品到着 ▲罐詰類、鮭、鮮福神漬 (大少) 旬、海苔佃煮、味噌、醃漬物、味、素(大、少) ▲乾物類、其他、高野豆腐、煮出し布、板昆布、縮緬煎子、煮出し煎子、干切大根、若布、乾餅、数子、御節茶 ▲海軍方印、海軍力餅、海軍根菜、海軍紅生姜干、海軍白、明、白、両色、美、廣水、洗粉、年代、香油、仁丹(小、大) 仁丹、海軍、クリム 多少に不揃御用命之程御禮申上げます。

忘年会 新年宴会 特別御勉強致します 何卒御下命之程願ひます 日本御料理 会席仕出し 御定食 千鳥 市内バルカセ街 一四七一 電話(三三)アベニゲ 四八八

中川長作 市内スアレス街一三〇。 電話(三三)バラカス。八九九

ロテリア當籤番号 000 79 000 25 000 33

祖国電報

第六十七回

通常議會召集

第六十七回通常議會は解散の危...

政府の議會対策
政友会の動静

政府は来る廿四日を以て召集さ...

林陸相満洲視察

林陸相は豫てから陸相として...

日蘭会商に関する
外相の説明

十八日の定例閣議に於て廣田外...

MEDICINAL NEWS 28-SUIPACHA-28

お正月用品各種到着

東京歯科 國分鉄蔵

G. Gonzalez MORENO

高級洋服

日英和協私案内容

(倫敦十七日) 日英和協私案に付
 其後の情報を綜合するに比が内
 容は次の如くと解される。
 (一) 各國政府は各々五ヶ年間の建艦
 計画を宣言する。宣言の内容は各
 艦種に互に質的量的方面から建艦
 計画代艦更新 並に代艦繰延べ
 の細目を宣明するものだが全く自
 主的として何等國際的拘束を加へ
 ず且つ比率主義の痕跡を留めず
 (二) 攻撃的兵力と防禦的武器との区
 別に基き、前者は船種別均等主
 義を認む後者は、付ては總噸數主義
 に依り各國々々の特異性を考慮す
 る。(三) 主力艦、航空母艦、甲級巡洋
 艦に於ては艦種別平等の建艦を確
 認するが現実には日英兩國の海軍
 力に差違あり且つ均等に達する迄
 には事實相當の年數を要するから
 此の事實を考慮し今後数年間に於
 て五年又は十年間に於ける建艦の段
 階を日本政府自ら宣言する。(四) 乙
 級巡洋艦以下の防禦兵器等は噸數
 主義により國防の特異性に基き所
 要兵力量を承認する。例へば英國
 政府には甲乙兩級巡洋艦を合して
 七十隻、内訳現有甲級巡洋艦十五
 隻と大型乙級巡洋艦十隻を維持し
 七千噸以下四十五隻を承認する。
 日本政府には潜水艦の現有勢力、
 七万八千噸の維持を承認する。從
 て倫敦條約の規定によれば日本政

府は一九三六年々々迄に潜水艦を
 五万二千七百噸に削減する義務が
 あるが和協私案で現有噸數の維持
 並に代艦を認めらる。

建艦計画に對し最高限度を設定
 する提案には英國政府は反對はし
 ない。大體攻撃的武器には質的に
 三割の縮減を加へ主力艦二万五千
 噸、航空母艦二万噸、巡洋艦五七
 千噸とし質的縮減によつて得た噸
 數を巡洋艦に融通し更に現有勢力
 を幾分削減した數字を最高限に決
 定したい。尤も共同最大限を認め
 るは傳言に照らし均等に承認せら
 れるはならぬが英國政府としては何
 とか共通最大限の要求を要求して
 るる様子だが宣言が比率主義の弱
 味を脱して居る裏に特に和協私案
 の伏線が潜んでゐると言はれてお
 る。右和協私案に對し米國代表部
 は未だ賛意を表明しないが日英兩國
 代表間に具體案論がなされつつ場
 合米國代表部地りが超然たるを得
 ないのは勿論で、英國政府當局の
 如き必ず米國代表部が和協私案に
 乗つてくるものと期待して居るか
 ら和協私案は予備會談の今後の
 動向を支配するだらう。

華府條約廢棄の通告

外務省では来る二十一日各報大
 便より華府條約廢棄の通告を呈す
 と同時に外務省の形式で、廢棄の
 通告を中外に宣明する事になつた。

故渡辺繁男氏
 葬儀會計報告

御會費寄附者芳名
 一金五十円宛、遠藤龜太郎殿 一
 金十円宛、田中耕次郎殿 一金
 拾円宛、松尾好一後藤三郎、白尾
 國彦、大原市次、田中実、出雲一、藤
 田、藤田、羽生友志、羽生甚哉、
 羽生幸六、倉富健太、阪口市太郎、
 山口吉三郎、宮園新次郎、大橋久
 一、中原榮吉、秋葉新一、永田左
 近、瀨戸山竹男、森川共十郎、
 新澤伊太郎、片山誠意、深田カ
 殿 一金拾円宛、石井勲殿 一金
 貳拾円宛、益田重造、山岡嘉一、富
 田源五郎、一、金拾円宛、半田八次
 山本史吉殿
 計金二百拾壹円也

支出

一金壹百十五円也、葬儀屋敷 一金
 十八円也、亞乃箱代 一金十三円也
 心附代 一金十五円也、花輪代 一金
 十二円也、自動車代 一金七円也
 通夜雜費、一金十六円也、新聞廣
 告料 一金七十九円也、郷里へ送
 金、一金六円也、骨送料
 計金二百八十一円也
 石を通り候也
 田中耕次郎 後藤三郎
 遠藤龜三郎 大原市次
 出雲市郎 倉富健太
 羽生幸六 松尾好一

日本書籍雜誌
 取次販賣

講談物思想物文藝物書籍
 少年少女向各種の雜誌新聞
 (番号自宅に配達致します)
 中川書店
 Ruzdaria 3034
 3er piso De 22
 U.T. 62. 3428

日本菓子
 製造販賣

松福堂菓子店
 店主 松尾好一
 市内サンホセ一街一五九一

JUGUERIA
 "TORRO"
 EL REY DE LOS JUGUETES
 CORRIENTES 635
 U.T. 31. Retiro 3754

ト一口玩具店へ
 クリスマス用諸玩具取揃
 へて居ります
 カタログ遠呈致します

産 妻 高見沢さま
 ミカエラダ マフィア
 ◎産室の設備あり
 ◎往診宅診随時
 POZOS 1341.
 U.T. 23. 7284

Dr. Oscar Rodriguez
 親切 丁寧
 日本人の方に
 特に御便宜を
 計ります
 ドクトル
 オスカール
 ロドリゲス
 MONTES DE OCA 1719
 U.T. 21 BARRACAS 0745

雜報

極東貿易に関するアマデオ博士の講演

去る十八日午後六時より当市株式取引所に於てトーマスマアデオ博士は「極東通商開發に就て」なる演説の下に一時以上三時以上...

邦劇上演

去る十九日午後九時より市内セントリア街一九二六・ラブラテルニター会館に於て演藝愛好家の...

日会役員会

日合連常役員会は去る十八日、同会々館に於て開催、例の如く多...

畢を決議し散会した。尚日会にて口予ての計画通り夏期少学校運動場用テナントを譲入した。

口サリオ市に於ける福岡庄太郎氏

アスンシオン市への歸途、福岡庄太郎氏は口サリオを訪向された...

不老会忘年会

明廿三日午後八時より料亭十鳥に於て不老会は盛大に忘年の宴を張る由。

内田拓務省囑託

内田拓務省囑託はロリオルで来亞するブラザル駐在拓務省加藤義明氏と同伴し一月十日飯路アスンシオンに向かす。

東利作氏

東利作氏は呼吸器病療養の爲去る十六日コスキンへ出奔、林甚太郎、佐藤平三郎両氏昇起の下に目下同氏病態見舞同情金募集中。

岩下重信氏入社

東京外語専修科出身の岩下氏は去る十九日日本社員として入社

女学校優等卒業

ウチヤマリ市在住右澤勝氏長女イサベル君江環は去る八日同市裁縫女学校を優等なる成績を以て卒業され裁縫教師の免状を得た。

村武食堂に就いて

去る...日(日曜日)に開設された村武食堂は沖繩海協のクニツク島に開かれ臨時的目的のものであった由。

野球戦

日軍対スタングラード第一回野球戦は去る十六日午後四時よりFC C A球場に於て挙行、結局十九A対五に日軍惨敗、同球場にて同じく挙行された朝日対西インディア戦は十九対十三にて朝日軍敗戦。

人事

- 右田納助氏全快
佐藤房久氏十六日サンチアゴテルエステロより出社。
深尾氏、病氣療養の爲マフイ市より出社せる同氏の経歴良好。
片井格次氏左記へ移轉
D. B. 2
Tabalcano #39, Terbio
山口田十七氏左記へ移轉
Ti. Huaná Figueroa / 338

大阪商船支店入艇下よ此は、横濱亞細亞船渠職員中村作次氏は去る十二日死産の由。

御案内

拜啓盛夏之初り各位益々御清栄之致事... 御案内
▲昭和十年正月六日早朝より
▲寒風... 麥酒五百粒ワイタ五
▲大音聲隊付バイロ大角力(花
▲百... 寄附)撃剣及各種競技
▲ブルワコ駅から会場迄カミノ
▲入場料大人ニペソ、婦人ニペソ五
▲仙、小人無料
▲詳細は追而発表
▲熊本縣海外協会西園支部

RESTAURANT "PAGODA"
Av. P. R. SAENZ PEÑA 614
U.T. 33 (Av.) 3738
中華樓餐室
世界に誇る美味と栄養
是非一度 御試食を願ひます

寫眞 寺川正人
複寫、引伸し商業寫眞は特に廉價に御注文を承じ申す
Castro Barros 334, U.T. 45 4253

RODOLFO V. BORG
ALSINA 631 U.T. 33. 1880
税関手続人
税関手続人登録許可番号 三三六
確實、迅速、廉價は永年同日本人顧客間に於ける定評です。
出向の際には是非御用命下さい

Table with exchange rates: \$ 2,000, 313, \$ 1,000, 313, \$ 400, 19

青春の歎き(7)

江守 三郎

「バートは静まり返つて来た。時々木枯しが吹いて秋の夜は更けて行つた。陽三は床に就いたが暫くは眠れなかつた。寝苦しう一夜を過して目醒めると暗い電燈が...

たのだ。現在の彼の生活では到底御前に満足な生活を送る事は出来ぬまいと思ふ。彼が御前に出来ぬ以上、御前も御前を恨む事はない。自分も御前を恨む事はない。...

J. Yamada MASAJISTA Concordia 4772 U.T. Villa Devoto 1226 山田忠重

幸と嘆きか互いの前をすり抜けて、さうして上の機に書き終へて彼は思つた。「幸子は既に人妻だ。若人であつたのは過去の事、此の機が手紙を出して貰ひたいなら、忠臣の愛を天に歌ひ上げる機にと書つてやるのだから悪くはないからう。

INSTITUTO MEDICO "BROWN" 血液の疾患、生殖不能、梅毒、尿道の疾患、婦人病(特別診察設備あり)

Dr. J. LUTZKY ALSINA 2474, UT 47. 5329 第二療養所 医師 肺臓、心臓、胃腸、呼吸器、喘息専門

ホフマン印 フランチャイゼ 井ノカルデーラ 修繕 取付一切迅速廉價に引受けます

LA PANDA Gran Deposito de Bolsas Lenzos, nuevos y usados キンタ用、新古ホルシ、リエンソ、フレンコ、アイロ

内務省免許 助産婦 羽生系 産婦人科専門医を顧問とする

SIERRA DE CORDOBA
Hotel "PLAZA"
 DE
Juan Kawabata
 QUINTA JAPONESA
 UNQUILLO (F. C. C. C.)

コルドバ州
 ウンギーゾ
 ホテル「プラザ」
 川端 嵩

御下宿
末廣館
 市内パリスス街十九番
 電話(三三)フエルトン
 五七三五番
 尾崎幸千代
 U. T. 23 B. ORDEN 5735



Mate
 los pulgones



de los rosales, crisantemos y demás plantas de su jardín, frutales hortalizas, etc. utilizando **Sulfatina O. W.** que los fulmina en el acto sin dañar ni manchar las plantas.
 El tarrito para 100 litros de agua \$ 2.-
 Pida folleto con instrucciones

HARTENECK SA
 Perú 399-B. Aires

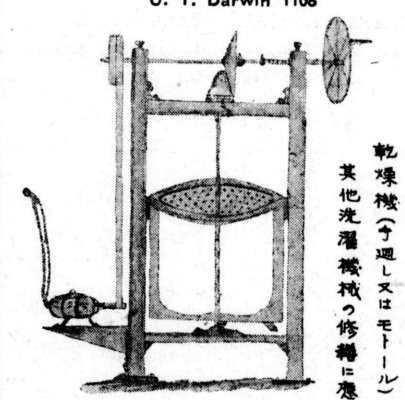
松堂商店
 豆腐・こんにやく
 製造 販賣
 多少に不物配達致します
松堂秀正
 市内カリフォルニア街二一八四
 電話(三三)バラカス 一四〇一

Tintorería "EL TOKIO"
 DE
ADOLFO K. OTSUBO
 裁 喜 坪 大
Rivadavia 5202
 U. T. 4738 Caballito

CAFE "TOKIO"
 DE
M. K. Miura & Cía.
 Casa Central
 MERCEDES (Ba. As.) - U. T. 191
 Sucursal
 JUNIN (F. C. P.) - U. T. 198

カエ 東京
 三浦 合資商店
 本店メルセデス市
 支店フニン市

A. MENDEZ
 TALLER MECANICO
Calle VERA 737
 U. T. Darwin 1108



カルボンナフタ又はガス汽鍋
 乾燥機(今更し又はモートル)
 其他洗濯機等の修繕に應ず

CAFE y CERVEERIA
 La "SATUMA"
 有水武二
 久松純雄
 竹内武義
 加藤吉隆
Gral. Hornos 54
 BUENOS AIRES
 U. T. 23 - 0526

自宅出張撮影
 複寫引伸し
 如何に古い寫真でも引
 受けます。
 市内サルタ街一五八
 電話リパゲビヤ五七〇四
寫真師 佐藤貞則

ALMACEN NISHISAKA
 Calle Australia 1101
 BUENOS AIRES

味噌 醸造
 醤油
 たくあんその他香の物
 肉一報次第
 配達いそぎます
 アウストラリア街
 一〇一番
 雜穀食料品商
 西坂貫太

御旅館 **昭和館**
 御料理
 館主 校本春裕
 市内コリエンテス街二五二九番
 電話(四七)クローヨ 八七六三番
 ◎清潔・安値・親切
 カフェ店就職希望の方には特に
 御便宜を計ります。

DARUMA TEI
 CHACABUCO 770
 U. T. 0243, Avenida

井物一品料理仕出し
 すし、かまぼこ、饅頭、賣出し
 定食、下宿料共に値下げ
 致しました。
だるま亭
 松田清市
 チヤカマフ街七七〇
 電話〇二四三(三)ニード
 出産、御贈禮等の祝儀
 御注文に應じます。

かまぼこ屋
MURATAKE

かまぼこの
御注文は村武へ
原料精選
味は良くて
値段は安い
御入用の節は電話で
General Urquiza 1979
U. T. 61-2507

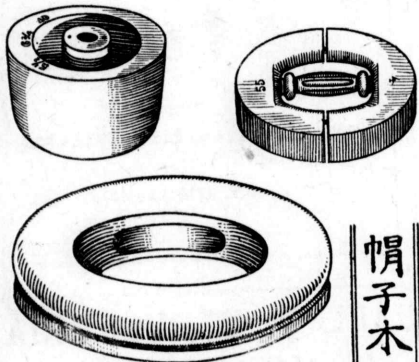
**THE NATIONAL CITY BANK
OF NEW YORK**

Bmé. MITRE 502 esq. SAN MARTIN U. T. 33-4031

日本人各位の種々御相談に應ずるため特に大阪支店より派遣された安野毅一氏が勤務してゐます
本店 米國紐育市
支店 東京、横浜、大阪、神戸
日本
国内 フラサオンセ、フロレス、ロサリオ
其他世界各地に支店出張所があります

LUIS GORI Hnos.

LIMA 1029 U. T. 23-2897



帽子木型製造工場

チントレリアの仕帯の上手は型が善く依ります。仕事に上手にふさはい型をばりませぬ。弊工場はマデラ、アラカ、デラコラ、アルカ、一本型等流行型ありゆり型を最近の市價で供給し、田舎からの御注文にも應じます。

SEMILLERIA

Juan Calé & Cía.

CASA MATRIZ

123 - PUEYRREDON - 123

UNIN TELEF. 47, CUYO 0065 y CUYO 0066

COOP. TELEF. 1137, OESTE

Sucursal N° 1

CORRIENTES 3175

U. T. 62, Mitre 1954

C. Tel. 323, Oeste

Sucursal N° 2

RIVADAVIA 2425

U. T. 47, Cuyo 5998

C. T. 1105, Central

Dirección Telegráfica "CALECIA", Bs. As.
Viveros de Plantas en Ituzaingó y Liniers
(F. C. O.)

BILLARES

BRUNSWICH



Barandas "MONARCH"

Material preferido en las casas de primera categoría

VENTA A PLAZOS
SIN RECARGO DE PRECIOS

CANGALLO 1818 - Bs. AIRES

U. T. 47, CUYO 3577

CLINICA MEDICA

CANGALLO

Calle Cangallo 1542

Atendida personalmente

por su dueño

Dr. A. GODEL

最新式獨乙療法
淋病——根治療法
梅毒——六〇六号、九一四号
婦人病、心臟、胃腸、各科専門
肺腎臟神経系統
◎日本人方には初診無料
X光線、デアテルミ、血液検査
診察日 自午前九時 至 午後三時
自午後三時 至 午後九時
日曜、祭日は午前中

BAR Y RESTAURANT

ASTURIAS

BUENOS AIRES

Cortóny Gómez Hnos.

25 de Mayo 299

esq. Sarmiento

U. T. (33) 3414, 1698.

タンゴ気分陶酔し
アスツリアス
アスツリアス
フエノスアイレス
の両バーへ……
◎日本人のモーツを雇入れております

Café JAPONES

藤田友八

CHIVILCOY (F. C. O.)

ALMACEN

DE NAKAGAWA

Suárez 1300 - U. T. 0869 Barracas

日本食料品
罐詰類直輸入
アルマセン
中川商店
市内スアレス街一三〇〇
電話(三)バラカスの八六九

Bs. Aires, Sábado 22 de Diciembre de 1934

SECCION CASTELLANA

Redactor: G. YOSHIO SHINYA

De la Política Idealista

La Experiencia Nipona

La República Argentina tuvo siempre una política internacional, leal y noble, que concuerda con su idealismo nacional, claramente expuesto en la Constitución, y ha tenido actuaciones brillantes en la esfera jurídica como defensora de los derechos y de la justicia. Son conocidos, entre otros, la declaración atribuida al General Mitre: "La victoria no da derechos"; la frase de Roque Sáenz Peña: "América para la humanidad"; la Doctrina Drago que se halla incorporada en la jurisprudencia internacional, y está fresco en la memoria de todos el último Pacto Antibeólico de Saavedra Lamas, actual ministro de relaciones exteriores, que tuvo resonancia universal y ha elevado el prestigio de la Nación Argentina ante el mundo.

El lejano Imperio del Sol Naciente, en otra esfera y en otras condiciones, ha venido luchando internacionalmente con los mismos principios y por los mismos ideales que animan a la Argentina, desde hace 80 años. Las circunstancias que rodearon y rodean al Japón, le han obligado a actuar enérgicamente algunas veces, pero el Japón no se apartó jamás de sus principios, a pesar de las versiones contrarias intencionalmente propagadas.

La historia diplomática del Japón moderno, analizada imparcialmente, contiene enseñanzas útiles y no desperdiciables para los países nuevos que tarde o temprano podrían encontrarse en frances semejantes. No ha sido tarea fácil para el Japón, conquistar la posición que ocupa hoy en el concierto internacional.

El Japón, que vivía una vida aislada del mundo cuando fué invitado para tomar parte en las actividades de las naciones, se dió cuenta inmediatamente de las condiciones aventajadas de las naciones occidentales cuyos adelantos admiró, hubo de dedicarse al aprendizaje para mejorar sus propias condiciones, porque el espíritu del pueblo del Yamato —calificado de ambicioso— no le permite permanecer tranquilo en situación de inferioridad ante sus semejantes, y luchó con la tenacidad de que él es capaz a fin de nivelar el grado de sus progresos con el de las principales naciones del mundo.

Halló muchas trabas en su camino, aunque no es dable enumerarlas en estas líneas. Empero es bueno que los amigos del Japón sepan que ellas han sido labradas ex profeso para dificultar el desarrollo del Japón, por los interesados en mantenerlo en situaciones similares a que están sometidos la mayoría de los países orientales, y la verdad sobre la política japonesa no ha sido nunca dada al conocimiento de los pueblos de Europa y América, a pesar de que sus hombres de estudio o estadistas la conocen y conocen desde hace ya mucho tiempo.

La situación actual del Japón, de por sí tan conspicua, no admite engaños. ¡El Sol Naciente brilla en todos los rincones del mundo!

Todo el que quiera conocer la realidad de las condiciones del Japón y su situación en el Extremo Oriente, tiene ahora elementos de juicio que pueden obtener de primera mano, directamente del Japón, sin perjuicio de las informaciones de otras fuentes que podrán también servirle como referencias.

Con un examen así, imparcial y cuidadoso, para el cual los argentinos estarían más capacitados que ningún otro, no será difícil cerciorarse que el Japón ha venido y continúa bregando por implantar en el oriente los principios de igualdad y respeto mutuo entre las naciones, y para que esos principios no permanezcan limitados al uso y capricho de las naciones del occidente.

Si la verdad ha de triunfar, las aspiraciones del Japón serán coronadas de éxito y el mundo tendrá que reconocerle sus servicios algún día.

No se olvide, lector, que es conveniente consultar las informaciones de origen japonés, antes de formular su juicio personal acerca de las cosas de ese lejano mundo.

Era del Pacífico:
ERA MUNDIAL

El mundo sigue incesante en su cósmico movimiento y los hombres y cosas de esta tierra continúan, asimismo, obedeciendo las inevitables leyes de las mutaciones, que rigen y regulan la evolución que los conduce hacia su perfeccionamiento.

Naciones y pueblos, aparecen y desaparecen en la historia; razas hay que se degeneran o se resurgen; civilizaciones predominantes o decadentes; riquezas que se derrumban y miserias que se tornan en opulencias. Todo, en fin, tiene su tiempo, su límite y su destino: nada es permanente ni invariable.

* * *

Teodoro Roosevelt, gran estadista norteamericano, tuvo la visión de la importancia que habría de adquirir el Océano Pacífico en el curso del presente siglo y lo aceleró con la construcción del Canal de Panamá que puso en contacto, en un punto estratégico, las aguas de los dos océanos: el Atlántico y el Pacífico. Un diplomático argentino, el Dr. Martín García Merou, que, siendo Ministro Plenipotenciario de la República ante el Gobierno de Washington, negoció y firmó el tratado Argentino-Japonés de Amistad, Comercio y Navegación de 1898, estudió este problema hace ya 30 años, en su interesante, aunque poco conocido trabajo, publicado en 1904 con el título de "Historia de la Diplomacia Americana", y pronosticó las posibilidades que son hoy realidades.

La guerra mundial de 1914-1918, marca el fin de una época gloriosa y el principio de una era nueva que tendrá por centro al más grande de los mares, el Océano Pacífico, cuyas aguas bordean las costas de las tres Américas, Asia Oriental y la Oceanía.

Es la consecuencia del desarrollo de la civilización occidental de los últimos tiempos, que va adquiriendo la amplitud requerida para alcanzar el verdadero fin del progreso humano, porque, como dice Jean Finot, la civilización tiende a nivelar las condiciones generales de los hombres, sin distinción de credos ni de razas. No se trata, según creemos, de la supuesta decadencia de Europa, sino sencillamente lo siguiente: que desaparece el mundo de Europa aunque contrariando su voluntad, para convertirse en un mundo de todos y para todos. La guerra que ha destruido tanto y engendrado dificultades enormes de vencer, ha legado, sin embargo, esta nueva situación que beneficiará a la humanidad entera. "Hoy Europa no domina al mundo, política, espiritual o económicamente. Ha surgido una gran organización industrial americana. El Oriente está despertando. El Japón avanza a grandes pasos", dijo Benito Mussolini, que es una franca confesión de Europa.

* * *

En efecto, la organización de la gran potencia americana primero, y el advenimiento del Japón moderno después, han transformado las condiciones político-económico-social del universo.

El despertar del Oriente que encierra mil millones de habitantes gravita poderosamente en todos los aspectos de la actividad mundial. Los sucesos posteriores a la guerra europea, giran, en su mayoría sobre el eje del Extremo Oriente: el Japón es hoy el factor principal de ese mundo.

El tratado de Washington de 1922, sobre cuya reforma se discute en este momento en Londres, es un documento oficial que públicamente reconoce la importancia actual del Océano Pacífico, que está destinado a desempeñar un rol significativo para el desarrollo de la civilización de la nueva era. en la cual no podrán ser ajenos los países americanos.

CULTURAL ARGENTINO - JAPONES

Tuvo lugar la Asamblea General Ordinaria de Socios de la Sección de Intercambio Cultural Argentino-Japonés del Museo Social Argentino el día 14 del corriente, según estaba anunciado.

La Sesión que fué presidida por el Presidente titular, Almirante Domecq García, previa aprobación de la Memoria y Balance del ejercicio vencido, procedió a la elección de la mitad de la Comisión Directiva.

La nueva Comisión Directiva quedó constituida de la siguiente manera:

Presidente: Almirante Domecq García; Vice-Presidente: Dr. Eduardo Crespo; Secretarios: señor G. Yoshio Shinya y Dr. Carlos Valmaggia; Tesorero: señor K. Yokohama; Vocales: General Angel P. Allaria, Dr. José B. Casás, Sr. K. Iyesaka, Sr. Z. Amari, Sr. Carlos Ishiy, señora Argelia G. de Barvie, Dr. Huerta, Sr. José María Bracerías Haedo, Dr. Garbarini Islas y Sr. Baldasare Torres.

El Dr. Tomás Amadeo, ex Vicepresidente, actual Presidente del Museo Social, es de hecho Presidente de Honor de la Sección.

La señora de Barvie, la única socia del Instituto, cuya actividad de tal fué reconocida, fué aclamada al ser electa como miembro de la Comisión Directiva.

Tratado Naval de Washington

TOKIO, diciembre 19 (United). — El Consejo Privado aprobó hoy la terminación del Tratado Naval de Washington.

La sesión del Consejo duró 40 minutos y en ella estuvo presente el Emperador Hirohito.

TOKIO, diciembre 17 (Rengó). — Anunciase que el Ministerio de Relaciones Exteriores del Japón, por intermedio del Embajador Saitó, hará la notificación de la denuncia del Tratado Naval de Washington el día 22 del corriente. Además se publicará una declaración pertinente destinada para el mundo entero.

CONFERENCIA

Tuvo lugar en el Salón de Actos de la Bolsa de Comercio, la conferencia del Dr. Amadeo sobre "La Ruta Comercial del Oriente", el día 18 del corriente.

Ante una concurrencia numerosa y selecta, previa presentación del estilo que estuvo a cargo del presidente de la Institución, el Dr. Ernesto Aguirre, inició su disertación el Dr. Amadeo, quien con su elocuencia conocida, habló durante más de una hora siendo escuchado con atención por el auditorio que lo aplaudió entusiastamente.

La conferencia fué una síntesis del informe que la Comisión de Estudio del Comercio con el Extremo Oriente, presentó a S. E. el señor Ministro de Relaciones Exteriores, Dr. Carlos Saavedra Lamas. Habló de la necesidad de hallar nuevos mercados para los productos argentinos cuya producción aumenta, mientras que los clientes viejos no consumen ni lo que consumían antes; que el Oriente es un mercado seguro para el porvenir, especialmente el Japón, país industrial, que importa anualmente más de 300 millones de pesos de valor en productos similares a los que la Argentina exporta. Explicó con autoridad de economista la falacia del cargo de "dumping" que se hace contra el Japón, diciendo que ello era exactamente igual al cargo que se hace contra la Argentina por el llamado "dumping" triguero.

Estaban presentes, entre otras personas conocidas, el Sr. Shibasaki, Secretario de la Legación del Japón en representación del Ministro, el Sr. Ch. Miyakoshi, Cónsul del Japón, Almirante M. Domecq García, Cap. Itó, agregado Naval de la Legación, numerosas personas del alto comercio, Comisión Directiva de la Cámara Japonesa de Comercio en pleno, etc., etc.

Radio Cultura

Audición especial de la
OSAKA SHOSEN KAISHA

L. R. 10

De 10.10 a 10.20 horas.
Todos los Domingos:

"Record" Sudamericano de Aviación

El capitán Raúl J. Solá del ejército argentino, en una de las pruebas realizadas en Córdoba con un avión Curtiss Kawk III, con motor Cíclope de nueve cilindros radiales, logró llegar a una altura de 9.500 metros en 42 minutos, superando así el record sudamericano.

Se puso en las tablas la
famosa obra de Tanizaki

Según anunciamos en nuestro número anterior, fué puesta en las tablas por los aficionados de la Agrupación "Juan B. Justo", el sábado último, en el Salón de la Fraternidad, la pieza en tres actos del conocido autor Japonés Jun-ichiro Tanizaki, titulado "Amor".

Nuestro compatriota, el Sr. T. Okimura, tuvo a su cargo la presentación de la obra, y la concurrencia fué numerosa.

La obra es realmente buena, pero de naturaleza profunda que ha menester ciertos conocimientos para apreciarla.

La representación fué también buena, tratándose de aficionados, y los artistas fueron aplaudidos.

Katsuda y Cia.

Importadores

MEXICO 1474

U. T. 38 - MAYO 2313

BUENOS AIRES

Sadao Hattori

Importador

Especialidad en artículos de Ceperilleria

LINIERS 649

U. T. 45, LORIA 3218

BUENOS AIRES

DIPLOMATICO FALLECIDO

TOKIO, diciembre 19 (United). — Falleció a la edad de 57 años el ex-Embajador del Japón en Washington, Dr. Masanao Hanikara.

El extinto era uno de los diplomáticos de mayor prestigio que tuvo el Japón en los últimos tiempos.

La III Conferencia Panamericana de Tisiología

El tercer congreso de tuberculosis reunido en Montevideo, inició sus labores el día 17 del corriente.

Los doctores Ramondi y Rabuffetti de la delegación argentina, presentaron informes relacionados con estudios realizados tendientes a la mejor forma de combatir la tuberculosis.

PRETENDEN COMPLICAR AL JAPON EN CUESTIONES AFRICANAS

Un telegrama fechado en Ginebra, de Associated Press, anuncia que ha sabido que los diplomáticos siguen con atención las noticias sobre el conflicto entre Italia y Abisinia, según se presume, porque hay rumores de un aumento en las actividades económicas del Japón, especialmente en cuanto a productos textiles, en Abisinia.

DARAN FACILIDADES A LOS TURISTAS EN LA ARGENTINA

El P. E. dictó un nuevo decreto disponiendo que los turistas que lleguen a la República y que deseen ser eximidos de la presentación de documentos requeridos por el decreto del 19 de enero, deberán venir provistos del pasaporte y del certificado de turismo que otorgará la autoridad consular argentina del punto de embarque, para lo cual abonarán como único derecho la suma de cinco pesos oro sellado por la visación del pasaporte.

Dos Profesores Americanos Para la Escuela Naval de la Argentina

Según telegrama de Washington de fecha 17, la Embajada Argentina firmó contratos con el capitán de navío William Alexander Glassford, del estado mayor de la marina, y el capitán de fragata Joel William Bunkley, ex comandante del crucero Marblehead, nombrándolos profesores para la Escuela Naval de Río Santiago. (United).

RIO JANEIRO MARU

El motonave "Río Janeiro Maru" de la Osaka Shosen Kaisha, a cuyo bordo harán el viaje los turistas que visitarán el Japón, es esperado aquí el 7 del mes próximo.

RADIO CULTURA

La hora japonesa del Radio Cultura continúa ofreciendo sus audiciones periódicamente, con amenas disertaciones, música japonesa, etc., que son muy solicitadas. Es encomiable la dedicación del Sr. Ramón Fonseca que la dirige.

PERIODISMO

Acaba de aparecer la prestigiosa revista "Veritas" correspondiente al mes de diciembre que contiene, como siempre, interesantes informaciones y comentarios de actualidad.

Esta revista dedicada a la banca, industria, producción y comercio argentinos, ha cumplido cuatro años de vida, cada vez más próspera.

Formulamos votos por que tenga éxitos aún mayores en el año próximo.

VARIAS NOTICIAS RESUMIDAS

La joven República Turca acaba de sancionar la ley reconociendo el derecho político de la mujer.

—Se habla de nuevo del propósito que tiene los Estados Unidos de construir el Canal interoceánico de Nicaragua.

—El volcán Aso de Kiushiu, Japón, estuvo en actividades.

—Quedó sin efecto la ley que limitara la entrada de diarios extranjeros en el Uruguay.

—Se ha descubierto un nuevo pozo de petróleo en Tupungato, Mendoza.

—Los comunistas han sufrido derrotas importantes en China.

S. ANDO y Cía.

Importadores

BERNARDO DE IRIGOYEN 143
U. T. 38, Mayo 1402

Llamamiento a la Juventud

La grandeza de una nación no se mide por su riqueza material; la verdadera importancia radica en la potencia cultural de su pueblo y especialmente en la condición moral y espiritual de su juventud dinámica, el alma de la nación, la esperanza del porvenir.

La Argentina ha tenido siempre su juventud descollante, desde la época de su independencia nacional cuando el núcleo selecto de los porteños se enlistó, con valentía y entusiasmo, en las filas de los "Patricios" a las órdenes de Cornelio Saavedra y la última revolución del 6 de septiembre de 1930, puede decirse, también, que fue la obra de la juventud universitaria de la ciudad de Buenos Aires, si bien hubo de valerle, para su ejecución, de las fuerzas del ejército dirigido por el eminente e inolvidable General José F. Uruburu.

El canto a la juventud del fascismo no es ninguna invención de Mussolini. La historia está llena de hechos notables de la juventud de todas partes y en todos los lugares. La maravillosa transformación del Japón moderno se debió también a la juventud nipona de hace 60 años.

La muchachada argentina de ambos sexos, cuya vivacidad es proverbial con su característica alegría y optimismo, llena de satisfacción al corazón patrio; sus miradas vigorosas y la simpática semblanza invitan a recordar el enérgico espíritu de mayo que simboliza el sol que luce la bandera azul y blanca. Y los jóvenes, especialmente los intelectuales, saben su propio valer. Podemos felicitarnos de ello, pues poseemos el tesoro más caro de una nación, que vale más que todos los bienes del extenso territorio juntos. Tenemos defectos, naturalmente; pero ¿quién no los tiene? Lo importante es que tengamos más méritos que defectos.

Yo aspiro a colaborar con la juventud argentina para hacer de esta patria una gran nación, porque estoy convencido de que aquí en las orillas del Plata ha de formarse un pueblo modelo para el mundo civilizado, pues ningún otro país tiene los elementos y las condiciones que la providencia nos legó.

El Gobierno y el pueblo están demasiado ocupados con las dificultades de la crisis y de la política, aunque no pretendo que desconozcan otros intereses primordiales de la nación, y el país necesita, sin embargo, hoy más que nunca, el socorro espiritual de que carece. Y pienso que nadie puede llenar este vacío mejor que la juventud intelectual.

Tendremos que estudiar la mejor forma de prestar ese servicio al país, sin precipitación, sin apasionamiento, serenamente. Mientras tanto, y de inmediato, podemos iniciar nuestra acción, sin consultas ni reuniones por ahora; meditemos... Hagamos inventario de todo lo que nos enseñaron e inculcaron nuestros mayores; consideremos lo que es nuestro deber para con nosotros mismos, con la sociedad y para con la patria y resolvamos, luego, cada cual, cumplir seriamente con nuestras obligaciones de hombre y de ciudadano, como dignos hijos de la patria de San Martín.

Cuando nosotros nos conduzcamos como verdaderos hombres cultos que nos encuadra en nuestra condición de juventud intelectual, el pueblo nos respetará más, no ya por nuestro saber que algunos desdennan, sino por nuestra cualidad, por nuestro comportamiento que imprimirá el noble sello de la hidalguía que admiramos. El pueblo sigue al ejemplo bueno, tarde o temprano. La clase media y superior tiene la responsabilidad y el deber de ser conductor y controlador del pueblo, espiritual y moralmente hablando. Para poder ejercer tales influencias necesitamos hacernos acreedores de la confianza y del respeto general.

Iniciemos desde hoy, jóvenes, nuestra obra de engrandecimiento nacional que está al alcance de todos, siguiendo en pos del ideal que ningún pueblo progresista puede perder de vista. El sólo hecho de decidirnos a seguir este camino, sin pretender la perfección que es imposible, nos dará la mitad de la victoria por la magna obra que emprendemos. El fruto lo recogerán los que nos seguirán después.

UN ARGENTINO DE CORAZON.

—Buenos Aires, noviembre de 1934.

DEPORTES**GOLF.—**

Habrà un concurso de Golf entre los socios japoneses de "Olivos Golf Club", el domingo 23 del corriente, para disputar la copa donada por el señor Itsuki Takata, en el cual tomarán parte los siguientes socios: señores Miyakoshi, Shibasaki, Amari, Annó, Furuta, Hanafusa, Ishiy, Iyesaka, Koma, Murai, Onagaya; Owa; Shirakata y Tsuji.

TENNIS.—

El Nippon Tennis Club está convertido en centro de reunión obligado de muchas familias japonesas que concurren casi todos los domingos y feriados.

Son numerosos los jugadores que practican con entusiasmo el deporte para ellos favorito en el field de Núñez.

BASEBALL.—

Los teams Nippon, Asaji y Nitto (Capital) y Hinode (Rosario), mantienen la honrosa posición conquistada en el mundo del Baseball argentino, deporte popular del Japón, del cual fueron los primeros propagadores en este país.

FOOT-BALL.—

Cuenta también con un buen número de aficionados a este sport que, como el Baseball en el Japón, siendo de origen extranjero, es hoy un deporte nacional.

Los jóvenes japoneses simpatizan, según nuestras informaciones, con el team de Boca Juniors, posiblemente por contar éste en su seno con un entrenador y masajista de su nacionalidad.

VOCES AMIGAS

(De "La Prensa")

"EL ARGENTIN DJIJO" — Este periódico japonés, que aparece en esta capital, ha iniciado con el número correspondiente al 8 del corriente la publicación de una edición en idioma castellano. En ella inserta diversos artículos sobre temas relacionados con el intercambio comercial entre la Argentina y el Japón y trata otras cuestiones de interés para ambas naciones.

SERMONES LAICOS DE JOSE INGENIEROS**De la Juventud**

3. — La juventud es levadura moral de los pueblos. Cada generación anuncia una aurora nueva, la arranca de la sombra, la enciende con su anhelo inquieto. Si mira alto y lejos, es fuerza creadora. Aunque no alcance a cosechar los frutos de su siembra, tiene segura recompensa en la sanción de la posteridad. La antorcha lucifera no se apaga nunca, cambia de manos. Cada generación abre las alas, donde las ha cerrado la anterior, para volar más lejos, siempre más. Cuando una generación se cierra en el presente, no es juventud, sufre de senilidad precoz. Cuando vuela hacia el pasado, está agonizando; peor, ha nacido muerta.

Los hombres que no han tenido juventud piensan en el pasado y viven en el presente, persiguiendo las satisfacciones inmediatas que son el premio de la domesticidad. Débiles por pereza o miedosos por ignorancia, medran con paciencia pero sin alegría. Tristes, resignados, escépticos, acatan como una fatalidad el mal que los rodea, aprovechándolo si pueden. De seres sin ideales ninguna grandeza esperan los pueblos.

La juventud aduna el entusiasmo por el estudio y la energía para la acción, que se funden en el gozo de vivir. El joven que piensa y trabaja es optimista; acerca su corazón a la vez que eleva su entendimiento. No conoce el odio ni le atormenta la envidia. Cosecha las flores de su jardín y admira las del ajeno. Se siente dichoso entre la dicha de los demás. Ríe, canta, juega, ama, sabiendo que el hado es siempre propicio a quien confía en sus propias virtudes generadoras.

La juventud es prometedora cuando asocia el ingenio y la voluntad, el saber y la potencia, la inspiración de Apolo y el heroísmo de Hércules. Un brazo vale cien brazos cuando lo mueve un cerebro ilustrado; un cerebro vale cien cerebros cuando lo sostiene un brazo firme. Descifrar los secretos de la Naturaleza, en las cosas que la constituyen, equivale a multiplicarse para vivir entre ellas, gozando sus bellezas, comprendiendo sus armonías, dominando sus fuerzas.

TROZOS ESCOGIDOS DE LITERATURA ARGENTINA**El Desierto**
(De LA CUEVA)

Era la tarde, y la hora
En que el sol la cresta dora
De los Andes. — El desierto,
Incomensurable, abierto
Y misterioso, a sus pies
Se extiende; — triste el semblante,
Solitario y taciturno
Como el mar, cuando un instante
Al crepúsculo nocturno,
Pone rienda a su altivez.

Cuántas, cuántas maravillas,
Sublimes y a la par sencillas,
Sembró la fecunda mano
De Dios allí! — ¡Cuánto arcano
Que no es dado al mundo ver!
La humilde yerba, el insecto,
La aura aromática y pura;
El silencio, el triste aspecto
De la grandiosa llanura,
El pálido anochecer.

Las armonías del viento,
Dicen más al pensamiento,
Que todo cuanto a porfía
La vana filosofía
Pretende altiva enseñar.
¿Qué pincel podrá pintarlas,
Sin deslucir su belleza?
¿Qué lengua humana alabarlas?
¿Sólo el genio su grandeza
Puede sentir y admirar!

ESTEVAN ECHEVERRIA.